

12月8日(月)

16:00 ~ 17:00

号館5207教室

## 「異なる時空間構造をもつ 食物種分布に対する ジェネラリストの集合的反応」

片山直樹 Naoki KATAYAMA

東京大学農学生命科学研究科 生物多様性研究室

### 要旨

捕食者は、食物のスケール依存的な時空間構造に対応するため、異なる空間スケールで異なる採食戦略を用いることがある。しかしジェネラリスト捕食者にとって、異なる食物種はしばしば異なる時空間構造をもつ。このときジェネラリスト集団は、異なる食物種分布に異なる空間スケールで反応する可能性がある。

本研究は、水田地帯を採食地とするチュウサギ集団とその食物分布を、複数の空間スケールにわたって調べた。その結果、主な食物であるドジョウは持続性が高く、オタマジャクシはドジョウよりも豊富だが持続性が低かった。そしてチュウサギ集団は、広域スケールではドジョウに、局所スケールではオタマジャクシ分布に一致した。これらの結果は、チュウサギ集団が、広域スケール(コロニーから飛び立つ時?)では過去の記憶を用いて持続性の高いパッチに、局所スケール(歩いて探索する時)では短時間の採食経験を用いて食物の豊富なパッチに集まったためだと考えられた。

\* セミナー終了後懇親会を予定しています。奮ってご参加ください。

TREEセミナーウェブページ：<http://wiki.livedoor.jp/treeseminar/>

12月13日(土)

16:00 ~ 17:00

号館5207教室

## 「甲虫分類学の基礎と応用 - 虫の種類が分ると何が解るの? -」

岸本年郎 Toshio KISHIMOTO

自然環境研究センター

### 要旨

地球上にはこれまで、約150万種の生物が記載されており、そのうちの約80万種が昆虫で、うち約35万種が甲虫である。日本においては、記載されている全生物約9万種のうち、約3万種が昆虫、約1万種が甲虫である。私は1990年の大学学部生の頃より、甲虫の中でも最も種多様性の高い群の一つであるハネカクシ科の分類学を専攻してきた。その中でいかにして種を識別するのかという問題や、科や属の境界をどこに設定するかという高次分類群の問題など、分類学の根本にかかわる問題を追求してきた。一方、現在の職場に就職してからは、生物多様性保全という課題に、自然環境行政に近い現場で取り組んでいる。

今回のゼミナールにおいては、まず、動物分類学における「種」の問題を簡単にレビューする。そして甲虫の多様性について、日本におけるハネカクシの分類学研究の現状について、未記載種が山積していることや、着生植物のオオタニワタリが支えている懸垂土壌甲虫相が非常に特異で多様であることが分かってきたという研究を例に、我々が知っている生物多様性についての情報は、実際のほんの一部らしいことを紹介する。そのような基礎研究を踏まえた上で、現在、行われている大台ヶ原の自然再生や小笠原における外来種対策についての保全の取り組みの現場の中で、昆虫の「種」の同定を行うことで解ってきたことについて紹介したい。

\* セミナー終了後懇親会を予定しています。奮ってご参加ください。

TREEセミナーウェブページ：<http://wiki.livedoor.jp/treeseminar/>